

わがまち再発見!!

シリーズ 文化財の紹介

対馬市教育委員会 文化財課

0920(54)2341

小坂遺跡



上県町の佐護湊に小坂遺跡があります。佐護の水田地帯の真中を貫くおよそ1キロメートルの直線道路の突き当たりが湊集落の入口で、右折し橋を通過すると左側に杜が見えます。神御魂神社の杜で、およそ五千平方メートル広さがあり、この全域が小坂遺跡（縄

文時代晩期から古墳時代後期）として登録されています。現在、杜は海に面した平坦地になっていますが、縄文時代晩期（約三千年前）頃は海に突き出た岬であったと推測されます。農道（通称アジサイロード）工事で岬の裾は断ち切られ、昔のおもかげはありませんがかつては岬の突端と対岸の湊集落との間は100メートルに満たない距離であったと思われまます。この時代海面は国道382号線をこえて深い入り江を形成していたはずで

地として、弥生・古墳時代は墳墓地として使用されたようです。神社の境内からは黒曜石の矢じり、縄文晩期の土器、弥生土器、古墳時代の土器、中世の朝鮮時代の青磁片が多数採集されています。

神社の杜の中はこぶし大、人頭大の石で覆われ、近年石の間から弥生時代後期（約千九百年前）の銅銚片が発見されています。

小坂遺跡からほんの僅かな距離に弥生時代と古墳時代の墳墓があり、それぞれに由緒があり、大事にされています。小坂遺跡も神社の杜として大事にされてきたので、大きな盗掘もなく現在に至っています。これだけの規模の弥生時代の集合墓は対馬にはありません。あたたかく杜を見守ってほしいとおもいます。

9月に入った本の紹介!

つしま図書館 0920(52)3900

『龍馬の黒幕』
加治 将一 / 著

1867年12月10日夜、坂本龍馬斬殺。犯人は新撰組とも京都見廻組ともいわれている。しかし矛盾と謎が多すぎる。真犯人は誰か? 浮かび上がる「龍馬の手紙」・・・龍馬が、死の直前に書いた最後の手紙



『旅する長崎学 海の道 対馬』
長崎文献社 / 著

長崎の歴史発見シリーズの第12話は対馬! 海神の島、大陸交流のかけ橋、朝鮮外交への道を詳しく載せた一冊。



『運命の人』1巻～4巻
山崎 豊子 / 著

政治家・官僚に食い込む力量は天下一品、自他共に認める特ダネ記者の弓成亮太。昭和46年春、大詰めを迎えた沖縄返還交渉の取材の中で、弓成はある密約が結ばれようとしていることに気づく。



『イボイボガエルヒキガエル』
三輪 一雄 / 著

ヒキガエルってきもちわるい? かわいいアマガエルとはぜんぜん違う。な～んのとりにえもないみたい、そんなこと言ったら怒り出した! ヒキガエルの話、ちょっと聞いてみる? 5歳から。



『家族になったスズメのチュン』
竹田津 実 / 著

スズメのチュンは、ヒナとき、死にそうな状態でひろわれて、獣医の竹田津先生のところへ持ちこまれました。すっかり元気に成長して、家族の一員となったチュンは、どうやら、自分を人間だと思っているようです。小学中級以上。



9月15日～10月14日までの
休館日のお知らせ

9月
17日(木)・21日(月)
22日(火)・23日(水)・28日(月)

10月
5日(月)・12日(月)・13日(火)